

松阪市議会
水谷議長様

平成26年11月27日
報告者 松阪市議会
前川幸敏

視察報告

今回、下記の通り行政視察を実施いたしましたのでその内容を報告いたします。

記

- 1、視察の日程 平成26年11月12日～11月14日
- 2、視察先・視察項目・担当者
南九州市・知覧特攻平和会館
館長・菊永克幸氏
鹿児島市・コンビニ交付による証明発行について
市民局・市民文化部・参事・北野正夫氏
市民局・市民部・市民課・主幹・日高次郎氏
始良市・観光戦略について
企画部・次長兼商工観光課長・久保博文氏
企画部商工観光課観光係・課長補佐・岩下直司氏
- 3、視察参加者 前川幸敏
- 4、視察内容 要点のみ記載

以上

[視察内容]

1、知覧特攻平和会館

知覧特攻平和会館は、大東亜戦争末期(戦後は太平洋戦争)昭和20年3月下旬から7月中旬にかけて沖縄で行われた陸軍航空特攻作戦において戦死された1036名の方々の遺影・遺書・手紙などを展示している南九州市の資料館です。

特攻作戦という人類史上他に例を見ない歴史上の事実から多くのことを学び、平和の尊さ・命の大切さについて理解を深めるとともに更に特攻隊員がたった一つしかない命を投げ出して国を守り、父母兄弟姉妹を守った強い責任感、家族を愛する心、国を愛する心を理解し、それを今後の自分の人生の充実・発展に役立てていただきたいと

その記録を後世に残し、世界恒久の平和に寄与することを目的とされています。

修学旅行や総合学習で来館されるにあたって、何を事前に学習したら良いか問い合わせがあるとのことで、当時の世界情勢を背景にした明治時代以降の歴史を正しく理解することにより、特攻の真実・特攻隊員の心を理解することができる。

最近、日本とアメリカが戦争をしたということを知らない世代が増えているという話があり私たちの一生は、先祖代々長い間に育まれた歴史の少しに過ぎない。

世界の国々を見ると、日本は素晴らしいと良く分かり、この素晴らしい日本を造ってくれた先輩諸君に感謝し後に続く者のために、平和で住み良い国づくりに邁進する立場にあり、この事が世界平和への貢献にもつながっていくのではと

この資料館は、特攻についてよく理解していただき世界の歴史を背景に日本がどのような歴史をたどったのか明治時代以降の日本史の真実を明らかにし特攻に至った歴史背景を判り易く解説された会館です。

そして、戦争を知らない世代への平和を考える学習の場として教育旅行・修学旅行等の誘致を図られ健全で正しい平和学習の推進に頑張られていることや語り部の方々が特攻の真実・戦争の悲惨さ・平和のありがたさ・命の尊さ・家族の絆について説明・案内をされていることに頭の下がる思いです。



2、鹿児島市、コンビニ交付による証明発行について

住民基本台帳カードをつくれればコンビニで住民票の写しなどがとれます。

住民基本台帳カードは住所地の市町村長が交付する身分証明書です。鹿児島市は6種類の証明書がとれます。

住民票の写し、印鑑登録証明書、所得額証明書、課税額証明書、所得額・課税額証明書、市・県民税証明書など

証明書の種類を住民票の写し等とした背景

他都市においては、コンビニ交付で取得できる証明書は、上記のほかに戸籍証明がある場合もあります。鹿児島市では戸籍証明については費用対効果の面から経費がかかること、現在戸籍と戸籍附票に限られていること、相続等の関係で除籍証明を取得される方も多いことから直接窓口で聞き取りを行うことで間違いのない証明書を交付できること等の理由により実施していません。

今後のコンビニ交付の利用状況を注視していきたいと考えているとの事です。

市内のコンビニ交付実施店舗数(セブンイレブン、ファミリーマート、ローソン)は277店舗で証明書交付実績は、サービス開始日26年1月14日から26年9月現在で5920件(約700件/月)、コンビニ交付手数料はコンビニ交付の利用定着を図るため、窓口交付では1通300円のところ、50円減額し250円とされています。

効果も、サービス開始から8ヶ月余りを経過したばかりで証明書交付窓口において来客数が減少したといった実感はまだありませんが、確実に5920件は窓口に来所することなくコンビニで交付を受けていて今後はコンビニ利用者登録が増加するにつれ窓口交付は減少していくとの説明を受けました。

これからの課題や改善点について

コンビニ交付の普及促進を図らなければなりません。

その為に住基カード交付申請書と一体となった広報チラシの作成と配付、届け出窓口での新規の印鑑登録者及び証明発行窓口での証明書請求者への住基カードの作成案内、資格取得の際、住民票の写し等を必要とするような業界団体に対し個別に広報などを行っているとの事です。

今後の展開について住基カードは27年12月で交付を終了し、28年1月から個別番号・カードの交付開始となる予定で、この為、個別番号・カードの普及がコンビニ交付の利用増につながるため両カードの円滑な移行及び交付枚数の増が図れるようにすることが必要だと考えているとの説明を受けました。



3、始良市、観光おもてなし計画

(1) 計画策定の目的・期間

平成24年に策定した第1次始良市総合計画に基づき、おもてなしの心による観光交流人口の拡大を図るため、始良市の持つ潜在的な可能性を最大限に活かし将来にわたって持続的に提供・享受できるような魅力ある観光地づくりを進めもう一度訪れたいくなるようなまちづくりの方向を示すもの。

また、この計画は、鹿児島県の動向を踏まえ、行政、市民、観光関係団体、事業者等の共生と協働のもと、始良市における観光施策を総合的かつ計画的に推進するため指針となるもの。

計画期間は26年度を初年度とし、長期的な展望も視野に入れた5ケ年を前期2ケ年と後期3ケ年とし、30年度を目標年次とします。

(2) 観光における課題

市内全域にわたる多様な主体の連携が必要

資源をつなぐストーリーの構築が必要

情報の集約、発信戦略の共有が必要

良好な広域アクセスを活かした展開が必要

始良市の立ち位置の明確化が必要

(3) 始良市の観光の目指すべき姿及び基本方針、基本施策

県内一暮らしやすいまちづくりの実現に向けて、市民のおもてなしの心があふれ、各地域に存在する始良の素材を光り輝かせる観光都市を市民と協働して創り上げていくことを目指し、4つの基本方針と12の施策を揚げた。

おもてなしの心あふれ、本物が光るまちづくり

始良市の宝物を観て体験してもらう

市民が活躍できる仕組み・場を創る

戦略的な情報提供と広域連携を行う

観光関連事業者等の育成と連携

上記の4項目の基本方針が光り輝くあいらの魅力です。



[所感]

特攻作戦とは、戦時中におこなった作戦で爆弾・爆薬を搭載した戦闘機を敵艦に戦闘機の搭乗員ごと体当たりさせ自爆する作戦のことです。

第二次世界大戦末期、特攻作戦により、若い特攻隊員1036人が亡くなった。そのうち知覧飛行場から出撃した隊員は402人であり死を覚悟し、愛する人や国を守る為にこの飛行場から飛び立っていった。

知覧特攻平和会館は、昭和40年代に、関係者から「遺品館」の建設の声が上がり、昭和50年に隊員の遺影・遺品を収集・保存し、記録を後世に残すために建設された。

施設内を視察をして感じたことは、当平和会館は単なる観光施設ではなく、展示品である遺影・遺品を通じて歴史上の事実を後世に伝え、現代における戦争・平和への心構えを訪れた人々に訴えかける施設である。

戦後、70年近くが経過し、戦争を知らない世代が増加してきたなかで、この施設の重要性を認識をした。

コンビニ交付による証明発行について、すでに店舗に設置されているマルチコピー機は、これらの証明書が発行可能な機械となっており、システムを構築して接続すれば交付が可能になっている。

このシステムの構築にかかった費用は24年度から25年度で約2800万円。又、システムの仲介役の地方自治情報センターに負担金として、毎年500万円とのことです。

なお、コンビニ交付の利用定着を図るため、手数料の割引をしている。

窓口交付では一通300円のところ、50円減額し250円としているとのことです。

コンビニで各種の証明書がとれるのは便利ではあるが個人情報コンプライアンスがコンビニへ流れていくことにセキュリティー面で問題はないのか研究が必要だと感じた。

始良市の観光戦略は、観光地として蒲生の大楠で国の特別天然記念物に指定され樹齢1500年の日本一である。

また、「あいらびゅー号」は新幹線の新鹿児島駅から始良市を結ぶ観光バスを走らせており、シニア世代に人気が高いとの事です。

報告でも申し上げましたが総合計画策定を受け26年3月に始良市観光おもてなし計画を5ヶ年計画策定をされたが霧島市や指宿市には太刀打ちできないため、立ち位置(方針)の明確化が必要と思っているとの事です。

始良市は両方の市に近く、両市に移動が可能であり逆効果となってあらわれており通過点

になっているように思った。

近いうちに、スマートインタチェンジの建設も始まり道の駅的な所もできそうとの事です。

始良市には、194の文化財があり鹿児島で一番多くあるので、宝物を生かした観光戦略も大事だが来て頂いても宿泊施設が少ないのがとの説明でした。

挨拶は「、ゆくさ、おさいじゃた、もした」と頑張られている。

観光戦略は、何か一つでも大ヒット商品を創ることが勝負に勝つことだと感じた。